OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	雑言
Author(s)	南雲, 道夫
Citation	全国紙上数学談話会. 1936, 114, p. 15-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74444
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

519. 雑　言

南雲道夫（阪大）

最近我が國ノ數學者ノ中カラ、數學界ノ現狀ニ對スル種々ナ反省的或ハ批判的ナ意見ヤ感想ヲ時々漏サレルノヲ聞クヤウニナツタ。之ハ今日ノ時代トシテ全ク當然且ツ必然ナモノデアリ，從來カヽル聲ガ數學界ノ内部ニ始ド聞カレナカツタコトガ寧ロ奇異デアル。　從來ガ極端ニ平穩（少クトモ表面上）デアツタダケニ、問題ハコノ特殊ナ世界ニ於テハ突然

デアリ顕著デアル様ニ見エル。

今日我國ノ數學ノ難題ノ重心ハ「數學ト一般大衆ノ理解トノ絶縁狀態」ニアルコトヘ明カデアル。コノ難題ノ解決ハ學界ノ現狀ヲ以テ見レバ殆ド絶望ニ近イノデアルガ，決シテ等閑ニ附シ去ルコトハ出來ナイ。

コノ問題ハ今後次第ニ重大化シ，種々ノ紛爭ヲ生ジ兼ネナイモノデアル。只我々ハアクマデモ冷靜ニ，區々タル人間的感情ニ捉ハレルコトナク、實質的解決ニ向ッテ何等カノ助力ヲ盡サネバナルマイ。誤解ヲ越エテ理解ヘ。

問題ノ重大サノ割合ニ我々ノ神經ハ細イ。從ッテ一時ノ興奮ハヤガテ古典等ヘノ逃避ヤ，數學者ノ自嘲自罵ニ了リ易イ。ソノ点ハ大イニ反省ト自重トヲ要スル、我々ハ強キ心臓ヲ持タネバナラヌ。

以上ニツイテ種々ノ考ヘモアルガ未ダ少シモマトマッテ居ラズ、發表スベキ時期ニ達シテ居ラヌカラ之ヲ止メ，此処ニハ我國ニ於ケル數學專門家内ノ問題ニ視野ヲ限ッテ少シク所感ヲ述ベサセテ頂キタイ。

今日ノ數學ハ著シク分化シテ居ルガ，シカモソノ各分科ノ相互間ニ於ケル交渉ハ以前ニモ増シテ複雑トナリ、緊密トナリツヽアルコトハ、實情ヲ知ル者ノヨク知ルトコロデアル。カノ「代數，解析，幾何」ナドト云フ古イ分類法ガ實質的意味ヲ全ク失ヒツヽアルコトハ高木先生ノ「過渡期ノ數學」ヲ読ムデモ理解出來ヨウ。然ルニ今日我ガ國ノ數學專門家相互ニハ研究上ノ連絡ガ極メテ乏シイ。

最近局部的ニハコノ弊が著シク改良サレテ來タ。シカシ全体的ニハマダ仲々デアル。之レデハ未ダ我國ノ數學界ハ、外國ノソレノ局部的追從ノ域ヲ脱スルコトスラ困難デアル。益々トシタ発展ニハ數學全体ノ有機的影響が必要デアル。群論——位相幾何——解析——幾何。之ガケ並ベテ見テモヨク分レデアラウ。

扨テ、ソレデハドウシテ各分科間ノ連絡理解ヲ計ルベキカ。之ニハ種々ノ方法がアルケレドモ結局ハイヅレモ實践ノ問題デアル。抽象的ナ観念ノ世界ニ生活スル我々ハ、カヽル問題ニサヘモ行詰リヤスイ。先ヅ第一ニ相互扶助ノ重要性ニ對スル充分ナル認識ヲ要スル。ソレニハヤハリ他ノ方面ノ大勢ヤ各方面ノ相互関係ノ大要ヲ知ラナケレバナラナイ。從ツテ、ソレゾレノ方面ニ関スル大要ヲバ出來ルダケ通俗的ニ紹介スベキデアル。（ソノ程度ハ相手ニヨッテ非常ニ異ルノデ實践的困難が伴フ）

此ノ際先ヅ相手ノ豫備知識及ビ知ラント欲スル要点ト程度トヲ明ラカニスル必要がアル。相手ノ要求以上ニアマリ深入リスルコトハ、カヘッテ相互ノ隔離ヲ促スモノデアル。

第二ニハ相互ノ理解ヲ深メル機會ヲ出來ルダケ多クスルコトデアルが，只時間ヤ回數ヲ多クスルダケデハ，各自ノ自身ノ研究ニ支障ヲ來タシ，從ツテ又遠ザカル危險ヲ生ズル。ソレニハナルベク相互ノ接触点ヲ見出シテ、ソレヲ表題トシテ、共通ナ談話會ノ機會ヲ作ルヤウニ努力セネバナラヌ。或ハ又最モ重要ナリト考ヘラレル問題ノミヲ特ニ選ビ之ニツキ

出來ルダケ少シノ豫備知識デ理解出來ルヤウニ叮寧ニ（然シナガラ証明ノ細カイ所ナドハ適當ニ略シテ）話ストコロノ連続的（適當ナ回数ニワタル）講演（或ハ綜合報告）ヲ行フノハ最モ有意義デアリ、之ハ実際少シヅツ行ハレテ居ルが、未ダ充分デハナイ。

尚コノ目的ノタメニモ我が紙上談話會が開放セラレテ居ルコトヲ強調セザルヲ得ナイ。

第三ニハ専門家各自ノ original ノ発表（談話會、或ハ雑誌）ニ際シテソノ研究ノ目標ヤ動機及ビ内容ノ大勢ヲバ最初ニ明確ニカヽゲ，他ノ方面ノ人々ニモソノ問題が、ホゞ如何ナルモノカヲ少シデモヨク分ルヤウニ努力ヲ惜ムデハナラナイ。

以上ノコトハ誰シモ考ヘル當然ノコトデアルが，イザ實際トナルト之デモ易シイコトデハナイ。（私自身が自分ノ無精ト偏狭トカラ自カラノ裏切ッテヰルノヲ見出スコトが多イ）殊ニ第一線ノ追求ニ眼目ヲスル暇モナイ新進ヤ，教育者トシテノ経験ノ浅イ青年ニトッテハ，以上ノ要求ハ相當重荷デアル。

此ノ点ニ於テハ幾分ナリトモ年数ヲ積ンダ人々ニ責任がアル。中年以上等ノ御方ニ是非失若返ッテ戴カナケレバナラナイ。

要スルニ我國ノ数學界ニハ有機性ト彈力性トが缺ケテヰル。Felix Klein ノヤウナ傾向ノ人が缺ケテヰル。Klein ヲバ宣傳家トカ，「デレッタンチスト」トカ見ル人

モアルガ，日本ノ数學ニハムシロ「ヂレッタンテスト」ガ、不足シテヰル（多スギテモ困ルガ）。紙上談話會ニモ二百ニ余ル會員ガアル。ソノ内第一線ノ追求等ニ余暇ノナイ人々ハ何%デアルカ。「ヂレッタンテスト」ガ居ナイ筈ハナイ。又ソノ「ヂレッタンテスト」ガ皆遠慮バカリシテヰル筈ハナイ。

終リニ私自身ガ「ヂレッタンテスト」ノ一種デアルガ，私自身ニハ左右等ニ種々ノ要素ガ混在シテヰテ、之レヲ清算シ得又中途半端ナトコロニ私ノ「ヂレッタンチズム」ガアル。之レハ本物デハナイ。我ガ國ノ數學界ノ現狀打破ト云フ大問題ノ前ニ、私ハ自分ノ無力ヲ告白スルノミデアル。